

事故事例研究部会委員

御 指 導 : 四日市労働基準監督署 安全衛生課長 岡 村 和 良 様
イラスト担当 : 昭和四日市石油株式会社 新 川 和 明 様

五十音順 (当該期間2022年1月~12月)

味の素エンジニアリング(株) = 味の素(株)東海地区安全衛生協議会代表
エムイーシーテクノ(株) = 三菱ケミカル(株)三重事業所安全衛生協議会代表
山 九 (株) = ENEOSマテリアル/JSR 四日市工場総合災害防止協議会
昭 永 工 業 (株) = D I C (株)四日市工場安全衛生協力会代表
(株) 第 一 工 務 店 = 上野製薬(株)四日市工場安全衛生協力会代表
東邦ガスエンジニアリング(株) = 東邦ガス(株)四日市工場安全衛生協議会代表
三 重 機 械 鐵 工 (株) = コスモ石油四日市製油所工事安全協力会代表

お わ り に

「労働災害事例研究」第42集が完成したのでお届けいたします。

令和4年の災害件数は、当連絡協議会(14協議会)に所属する会社(488社)において、休業災害5件、不休業災害29件であり、過去10年間で最も悪い結果となりました。

災害の特徴として、休業災害は令和3年に比べて半減しましたが「転倒」が2件、「はさまれ、巻き込まれ」、「動作の反動、無理な動作」、「有害物等との接触」がそれぞれ1件ずつ発生しております。

また不休業災害についても、高温・低温の物との接触(熱中症)7件、有害物等との接触(被液)5件、切れ、こすれ4件が上位になっております。これらはいずれも過去40年間で同じ傾向にあります。

私自身この事例研究に携わり10回目になりますが、振り返ってみますと労働災害事例の原因の根底にあるものの多くが、危険に対する感性・意識の不足、規則・ルールなど決められたことが守られていないこと、および関係者とのコミュニケーション不足(客先、協力会社)にあると考察しております。

「事前の一策、事後の百策に勝る」という言葉があります。会員の皆さま方におかれましては、本事例を他山の石としていただき、我々の仲間から絶対に怪我人を出さないという強い決意のもと、類似災害の未然防止ツールとして、危険に対する感性・意識を高める教育・訓練、また、工事の計画段階でリスクアセスメントへの織り込みなどを行い事前の一策を講じていただければ幸いです。

最後に、公務ご多忙の中、当事例研究会をご指導いただきました四日市労働基準監督署安全衛生課長 岡村様および前任の水谷様、ならびに、ご熱心に討議いただきました各委員・関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

令和5年6月

事故事例研究部会長／三菱ケミカル(株)三重事業所安全衛生協議会代表
エムイーシーテクノ(株)中部事業所 原岡 道昭